

# 第5学年1組 道徳科学習指導案

授業日 平成28年7月5日(火) 4校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 劔 仁美

会場 5年1組教室

## 1 主題名 同じ言葉でも…

### 教材名 「悟の失敗」

(出典：きみがいちばんひかるとき 光村図書出版) 一部改作

## 2 本主題の価値

本主題は、平成27年7月に告示された学習指導要領解説第5学年及び第6学年の内容に準拠して設定したものである。

B 主として人との関わりに関すること

【中心となる道徳的価値】友情，信頼

(10) 友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと

【関連する道徳的価値】親切，思いやり

(6) 誰に対しても思いやりの心を持ち，相手の立場に立って親切にすること

本主題で扱う中心となる道徳的価値は、「友情，信頼」である。高学年の子どもは、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとする。また、流行などにも敏感になり、ともすると趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれる。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる。このことが不安な学校生活につながる状況もみられる。このことから、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。

本教材は、仲のよい友達関係にある二人の話である。休み時間のサッカーの練習、普段から少しきつい言葉で会話をしているが気持ちが通じ合っているから大丈夫と気にもとめていない。しかし、ある日、サッカーの試合でミスをしてしまった友達を励まそうと、普段と変わらない言葉をメールで送ったところ、相手との関係が険悪になってしまう。「メールがよくなかったのか」「タイミングが悪かったのか」。本教材では、「同じ言葉をメールで送ること」と「同じ言葉をいつもとは異なる状況で送ること」について気付かせる。このことから、本教材には2つの価値がある。一つめは、仲のよい友達だからと言ってメールでは気持ちまでは伝えきれないことがあるということに気付くことができることである。情報社会に置かれている子どもにとって、メールは身近なツールになりつつある。情報モラルの視点からも考えさせることのできる教材である。二つめは、同じ行為でもその場の状況や置かれている相手の気持ちを考えなければよくない状況になるということに気付くことができることである。相手の立場に立って考えるとはどういうことなのかを疑似体験することのできる教材である。

「親切，思いやり」については、本教材を用いて行為やその意味を考えるときに関連して考えられる道徳的価値である。「親切」とは、思いやりの心が伴った行為である。「思いやり」とは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。高学年になると、自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。そのため、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかを考えさせることが重要となる。

## 3 本主題で目指す姿

相手が置かれている状況を考え、自己の生き方について考えを深める子ども

具体的には、

#### 【直接言う】

試合が終わって、直接「また一緒にがんばろう」と元気付けるような言葉を言います。健太のことが心配だから、直接励ました方がよいと思うからです。

#### 【メールで言う】

悟と同じようにメールをします。でも、「大丈夫?」「元気出して、また一緒にがんばろう」と健太が元気になるようなメールを送ります。

#### 【そっと傍にいる】

自分が悟だったら、何も言えないかもしれません。何も言わずに傍にいます。健太の気持ちを考えたら、何と声をかけてよいか分からないからです。でも、傍にしようと思います。

と考える姿。具体的な行為は様々だが、相手が置かれている状況や気持ちを考えて行為を選択し理由を述べている姿。

## 4 本主題で育む資質・能力

単元カード参照

## 5 指導計画 全1時間(30)

単元カード参照

## 6 指導の構想

子どもは、自分の生活経験から自分なりの価値観をもっている。「友情、信頼」については「一緒に遊んでいる人が友達だ」「友達なら、少しくらいきつい言葉でも分かり合えていけばよい」という価値観をもっている。このような子どもに、C0の状態を表出させるために、次のように働き掛ける。C0を表出させるのは、子どもに今の状態を自覚させ、話し合いを通して考えが深まったことを自覚させるためである。

### 働き掛け1

**子どもにとって身近な教材の前半場面を提示し、悟と健太の関係を問う。**

友情、信頼についての個々の価値観を表出させるための働き掛けである。

教材の前半場面を読み聞かせる。子どもには、文章を与えずに場面絵を示しながら教材を読み聞かせる。悟や健太の心情を文章から読み取ることなく自分の経験から想起しやすいようにするためである。教材の場面は、子どもにとって身近なものを設定する。子どもにとって身近な場面を設定することで、道徳的な問題(本時では、友情、信頼についての問題)を自分とのかかわりで考えさせるためである。

教材の前半場面を提示して、悟と健太の関係を問う。提示する教材の前半場面は、仲良しの登場人物が、少しくらい言葉で会話をしつつも互いに信頼し合っているという場面である。提示して「このような関係をどう思うか」と問う。子どもは、教材の場面と自分と友達との関係を想起して「一緒に遊んでいる人が友達だ」「仲のよい友達なら、少しくらいきつい言葉でも分かり合えていけばよい」「いくら仲がよくてもきつすぎるのではないか」(本研究のC0)と考える(資質・能力①(道徳)「友情、信頼についての道徳的価値に支えられた価値観」)。

### 働き掛け2

**教材の後半場面を提示し、健太の気持ちを問う。**

問いをもたせるための働き掛けである。

教材の後半場面を読み聞かせる。提示するのは、仲のよかった二人の関係がおかしくなるという場面である。子どもは「何があったのだろう」「どうしてそうなったのだろう」と登場人物同士の関係の変化から原因を考える。そのような子どもに、メールの画面を提示する。子どもは、メールをしたことやメールの内容について自分の価値観と照らし合わせながら見る。そして「これではダメだ」と悟の行為に対して問いをもつ(資質・能力③(道徳)「経験に基づいて考える考え方」)。悟の

行為がダメであると考えている子どもに挙手させる。挙手をした子どもを問いをもった姿とする。

### 働き掛け3

#### 悟の行為の問題点を問う。

「友情、信頼」について新たな見方、考え方(同じ言葉でも相手の状況や気持ちによって取る行為が変わる)を発見させるための働き掛けである。

メールや内容がダメだと考えている子どもに「悟の何が問題なのだろうか」と問う。子どもは、悟の行為に目を向け「メールで伝えたことがよくない」「内容がよくない」と考える。そして「これではダメ。傷つくと思う。もっと励ましの言葉を掛けてあげることがよい」「メールじゃなくて電話の方がよいのではないか」と多くの子どもは、悟の行為をよいとは考えない。問題点は、「メールなのか、メールの内容なのか」と焦点づけて議論させる。これにより子どもは、**資質・能力③(社会)「多角的に考える」、資質・能力③(道徳)「物事を多角的に考える」**を発揮して、悟の何が問題なのかを考える。ここで、悟の行為(メールを送ったこと、メールの内容)から問題点を明確にさせるためにそれぞれの立場で発表することや理由を分類整理して板書する。子どもは、行為とその意味を関係付けて**資質・能力②「友達の考えと自分の考え、それぞれの立場で比較して考える」**を発揮して「もしかしたら、メールじゃなくても同じようなことを言葉でいっても健太を傷つけたのかもしれない」「問題なのは、メールじゃなくていつもとは違う状況なのに、いつもと同じように声を掛けたことなのではないか」と気付く。

### 働き掛け4

#### 同じような場面に会ったら、自分だったらどうするかと問う。

自己の生き方について考えを深めさせるための働き掛けである。

悟の行為を通して「相手が置かれている状況や気持ちを考えることが大切だ」と気付いた子どもに、「同じような場面に会ったら自分ならどうするか」と問い理由も記述させる。子どもは話し合ったことを想起しながら**資質・能力④(道徳)「よりよい解決に向けた態度」**を発揮して「試合が終わって、直接「また一緒にがんばろう」と元気づけるような言葉を言う。健太のことが心配だから、直接励ました方がよいと思うから」「悟と同じようにメールをする。でも、「大丈夫?」「元気出して、また一緒にがんばろう」と健太が元気になるようなメールを送る」「自分が悟だったら、何も言えないかもしれない。そっと傍にいる。健太の気持ちを考えたら、何と声をかけてよいか分からないから」と考える。具体的な行為は様々だが、相手が置かれている状況や気持ちを考えて行為を選択し理由を述べる。このようにして、目指す姿となる。

## 7 本時の構想 (本時 1/1時間)

### (1) ねらい

「友情、信頼」について考えることを通して、同じ言葉でも相手が置かれている状況によって感じ方が変わることに関心し、「自分はどうするだろう」とこれからはに向けて考えることができる。

### (2) 主張(展開) 3Q (45分)

#### このような子どもに

##### 【友情、信頼について】

- ・いつも遊んでいるのが友達だ。
- ・友達は、喧嘩もするけれど、一緒に笑い合える人だ。
- ・友達なら、少しくらいきつい言葉を言っても分かり合えていけばよい。
- ・友達を元気づけるときには、優しい言葉を掛けてあげるとよい。

#### このように働き掛けると【働き掛け1】

- 子どもにとって身近な教材の前半場面を提示し、悟と健太の関係を問う。
    - ・説明「今日のお話は、悟の失敗というお話です」
- ※場面絵を示しながら前半場面を提示する。本文は、配付しない。

- ※読み聞かせた後に、場面の状況が把握できていないようであれば確認する。
- ・発問「悟と健太のような関係をどう思いますか。どうしてそう思うのですか」
- ※記述後、数名指名し、友達についての価値観を発表させる。
- ※同じように思う人はいるか挙手で確認する。

### このようになり (C1)

- 悟と健太のような友達関係を想起する。  
(教材名を知っての子どもの意識)
  - ・悟はどんな失敗をするのかな。
- (教材の前半場面を提示されてからの子どもの意識)
  - ・ちょっと、言葉がきつい気がするな。
  - ・親友みたいで、いいなと思います。お互いに全部が分かり合えている感じがするからです。
  - ・こういう友達いいなと思います。だって、何だか分かり合っている感じがするからです。
  - ・すごく仲良しの友達だと思います。ぼくにもこういう友達があります。同じようにサッカーをしたり、話をしたりする友達です。
  - ・いいなと思うけれど、悟と健太みたいにきつい言葉は使いません。
  - ・お互いに分かり合っている友達がいいなと思います。ぼくも、サッカーに夢中になっていると、ついきつい言葉を使ってしまうことがあります。でも、お互いが分かり合えているから大丈夫だと思っています。

※悟と健太との関係と、自分と友達の間を想起して発言している、関係について発言をしている。または、挙手をしている姿をC0の姿とする。

### このように働きかけると【働き掛け2】

- 教材の後半場面から健太の気持ちを問う。
  - ・説明「続きを見てみましょう」
- ※場面絵を示しながら後半場面を提示する。本文は配付しない。
- ※読み聞かせた後に、場面の状況が把握できていないようであれば確認する。
  - ・説明「これが、悟が健太に送ったメールです」
- ※メールの本文を大型テレビに映し出す。
  - ・発問「このときの健太の気持ちわかりますか。どうして分かるのですか」
- ※このメールではダメだと思っている人を挙手させる。挙手をした子どもを悟の行為に問題を感じているとして問いをもった姿とみなす。

### このようになり (C2)

- 教材の後半場面を知り、健太の気持ちを考える。  
(後半場面提示の時の子どもの思考)
  - ・悟と健太の間に何があったのかな。
  - ・どんなメールだったのだろう。
  - ・いつも話しているように打ったのか。きつい言葉だから、悟は傷ついたのかもしれない。
  - ・でも、いつもは傷つかなかったのにどうしてかな。
  - ・メールだからじゃないかな。言葉よりもメールだと伝えたいことが伝わらないんだよ。
- ※教材の後半場面提示の際に、「どうしてかな」というつぶやきがあれば拾い全体に共有させる。  
(後半場面提示後の子どもの思考)
  - ・このメールじゃダメだよ。
  - ・すごく嫌だったのだと思います。だって、試合でミスをして自分のせいで負けたと思っているときに、こんなメールをもらったら余計に傷つくと思うからです。
  - ・どうしてこういう言い方なのかとイライラします。友達なら、もっと優しくしなくちゃいけないと思うからです。

- ・すごくショックだったと思います。親友だと思っていたのに、ミスをしてショックなときに、ひどい言い方をされたからです。

※「このメールではダメだ」と思っている人を挙手させる。挙手をした子どもを悟の行為に問題を感じているとして問いをもった姿とみなす。

### このように働きかけると【働き掛け3】

○ 悟の行為の問題点を問う。

- ・発問「みんなは、このメールがよくないと思っているのですね。悟の何が問題なのでしょう。そのように思うのはどうしてなのか理由も書きましょう」

※ワークシートを配付する。

※ワークシートに記述させ、数名を指名し発表させる。

※「メールをしたことが問題である」と考えている子どもから発表させる。

※「メールをしたことが問題だ」「メールの内容が問題だ」（「タイミングが問題だ」と考える子どもを発表させ、問題なのは「メール」か「メールの内容か」と焦点づける。

- ・発問「みんなは、問題は、メールなのか、メールじゃないのか話し合いをしているようですね。では、このことについて話し合いをしていきましょうか」

※「メールをしたことが問題だ」「メールの内容が問題だ」それぞれの立場で発表することや理由を分類整理して板書する。「試合が終わったときに声を掛けなかった。タイミングが問題だ」と考える子どもがいれば項目を3種類に増やし分類整理して板書する。

### このようになり (G3)

○ メールの内容を知り、悟の行為や気持ちから問題点を考える。

#### 【メールをしたことが問題だ】

- ・大事な試合でミスをして落ち込んでいていつもと違うのだから、いつも話をしているのと同じようにメールをしちゃダメだと思います。
- ・健太がミスをして落ち込んでいるときに、メールで言われるよりも直接言ってもらった方がいいと思うからです。
- ・こういうときは、メールじゃなくて電話の方がいいと思います。メールよりも直接話をした方が気持ちが伝わると思うからです。

#### 【メールの内容が問題だ】

- ・メールをするにしても、こういう言葉ではダメだと思います。ミスをしてショックを受けているはずだから、「元気出して」「そういうこともあるよ」とか励ましの言葉が必要だと思うからです。その方が、健太は傷つかなかったと思います。
- ・いつもの練習とは違います。地区の代表に選ばれるかどうかの大事な試合でミスをしたわけだからすごく傷ついているのに、こんな風に言われたらもっとショックを受けるはず。大丈夫? とか心配するような言葉がないとダメだと思うからです。
- ・試合でミスをしたのにこんな風に言われたら傷つくと思うからです。

#### 【タイミングが問題だ】

- ・試合が終わったときに声を掛けなかったのが問題だと思います。そのときに直接、声を掛けてあげた方が健太の気持ちは少し楽になると思うからです。

※資質・能力 社会③：自分の立場を明確にして、状況に合った問題点を指摘しれいれば発揮したとみなす。

※資質・能力 道徳③：自分の考えの理由として、相手が置かれている状況や気持ちを考えていれば発揮したとみなす。

- ・結局、何が問題で二人の仲がおかしくなったのだろう。
- ・もしかしたら、メールじゃなくても同じようなことを言葉で言っても健太を傷つけたのかもしれないと思います。
- ・直接声を掛ければ、相手がどんな気持ちなのかがよく分かります。やっぱり、メールが問題だったのだと思います。
- ・みんなの意見を聴いていて、問題なのはメールじゃなくていつもとは違う状況なのに、いつもと同じように声を掛けたことなのではないかと思います。
- ・メールであっても、メールじゃなくても、どちらにしても健太の気持ちを考えていなかったことが問題だったのだと思います。

#### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 自分だったらどうするか、よりよい行為を考えさせる。
  - ・発問「今日は悟の何が問題だったのかを考えてきましたね。悟は、このようなメールを送りました。自分が悟だったらどうしますか。理由と一緒にワークシートに書きましょう」
  - ※ワークシートに記述させ、時間があれば数名を指名し発表させる。

#### このようになる (Cn)

- 自分が悟だったらどのような行為を取るか理由とともに考える。
  - 【直接言う】
    - ・試合が終わって、直接「また一緒にがんばろう」と元気づけるような言葉をいいます。健太のことが心配だから、直接励ました方がよいと思うからです。
  - 【メールで言う】
    - ・悟と同じようにメールをします。でも、「大丈夫?」「元気出して、また一緒にがんばろう」と健太が元気になるようなメールを送ります。
  - 【そっと傍にいる】
    - ・自分が悟だったら、何も言えないかもしれません。何も言わずに傍にいます。健太の気持ちを考えたら、何と声をかけてよいか分からないからです。でも、傍にいようと思います。
- ※           のように「友情、信頼」についての考え方や感じ方を基にして考えた行為と           のように理由の中に相手が置かれている状況を考えているかをワークシートの記述から検証する。

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、          のように「友情、信頼」についての考え方や感じ方を基にして考えた行為と           のように理由の中に相手が置かれている状況を考えているかをワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け3を受けて 道③ や 社③ のような資質・能力を発揮して、「友情、信頼」についての道徳的価値に対する考え方や感じ方を基に、立場を明確にして物事を見たり考えたりしているかを発言やつぶやき、ワークシートの記述から検証する。